

- 発行：ふらっとふらわーず
- 2016 冬号：第13号
- 連絡先：042-682-2835
- 編集委員：内田信子

ふらっとふらわーず ニュース

- 季節の花：梅・プリムラ
- コラム：植物の冬越し
- 情報：花のイベント

季節の花

★【梅】バラ科 / サクラ属

激寒に先駆けて、白・ピンク・赤などの花を咲かせ、香りで開花に気付くこともあります。別名、**好文木（こうぶんぼく）**と呼ばれ、これは、晋の武帝が学問に親しむと花が開き、愈ると開かなかつたという故事から付けられたとされており、また、早春に他の花にさきぎけて咲くため、「**花の兄**」や「**春告草**」とも呼ばれます。別名からも歴史と季節を感じられる花です。「梅」は春の季語ですが、「早梅」「冬の梅」は冬の季語です。名前の由来は「**うみむ（熟美）**」の約転。中国音「**メイ**」の転訛。薬用として渡来した**爛し梅（うばい）**に由来。など諸説あります。

古くから日本（九州北部）に自生していたという説もあります。奈良時代以前に、中国文化と共に遣唐使が薬木として、日本に持ち帰ったものといわれています。正確な渡来時期はまだわかっていませんが、「**万葉集**」では**100首を超える**歌が詠まれていることから、奈良時代にはすでに栽培されていたようです。江戸時代以降の花見といえばサクラの花ですが、奈良時代以前に「花」といえば、梅を指したといわれます。

観賞価値の高い花を咲かせる「花ウメ」と薬や食品加工用に向く良質の実をつける「実ウメ」に分けられ、目的の違いにより剪定方法や肥培管理など栽培方法が異なります。花ウメの観賞対象は花の他に、**香りの幹の形・枝ぶり**です。寿命の長い樹木なので、年月をかけて樹形をつくるのも楽しみの一つです。

この花にかかわる**伝説やことわざ**は数多く、例えば「**松・竹・梅**」は、中国では、松と竹は冬の寒気に耐えて緑を保ち、梅は寒さの中で、白花に先がけて花を咲かせることから、「**歳寒三友**（さいかんさんゆう）」と言われる（寒さの厳しい時期の3種類の友人・東洋画の画題の一つ）日本に伝わった後、めでたいものとして慶事に使われるようになりました。また「**飛梅伝説**」は、平安時代の貴族・菅原道真が、朝廷内での政争に敗れ、遠く九州の大宰府へ左遷されることになった際、幼い頃より親しんでいた紅梅殿（こうばいでん）の梅に、「**東風（こち）吹かば匂ひおこせよ梅の花 あるじなしとて春なわすれそ**」と詠いかけました。主人（道真）を慕った梅は、道真が大宰府に着くと、一夜のうちに道真の元へ飛んで来たといわれています。



八重寒紅 冬至



大宰府天満宮 飛梅

「高潔」「忠実」「忍耐」（hananokotoba.com）
（参考：趣味の園芸、太宰府天満宮、goo辞書、梅の月向農園）

★【プリムラ】サクラソウ科 / サクラソウ属

サクラソウ属の植物は5000〜6000種があるとされており、**プリムラ・ポリアンサ**はヨーロッパ原産のエラチオール、ブルガリス、などが交雑されて育成された品種群で、このポリアンサに、コーカサス地方原産の小型種P・ジュリエを日本で交配させて誕生したのが、**プリムラ・ジュリアン**です。

もともと、株元から花茎を伸ばし、その先「笠」のように花を咲かせる性質をもっているのがポリアンサ。株元で密集して花を咲かせるのがジュリアン。この品種は容易に区別できました。しかし、P・ジュリエとの交配が進むうちに、ポリアンサも株元で花を咲かせる性質に変わっていきまし。今日ではこの**2品種群の区別は花の大きさのみ**になり、**大輪**がポリアンサ、**小輪**がジュリアンとして扱われています。プリムラは「**一年の最初に咲く花**」という意味で、英名のプリムローズは「**最初のバラ**」バラの花のように美しいことを表しています。

◎ **育て方**（鉢植えの場合）
栽培環境：夏にタネをまいてできた苗を、秋の彼岸までは半日陰で管理し、それ以後は日なたで管理します。

水やり：用土の表面が乾いたら、たっぷりと与えます。開花中は株の中心や葉の間、花に水がたまらないように注意します。
肥料：10月から4月は緩効性化成肥料。1月から4月の開花期は液体肥料
ふやし方：タネまきの適期は6月から7月。株分けの適期は9月で、植え替えの際に1〜3芽に分けます。

花言葉

「青春のはじまりと悲しみ」「青春の恋」（hananokotoba.com）
（参考：趣味の園芸）



プリムラ —冬芽とロゼット— 植物の冬越し

寒い冬、植物たちはどうやって冬を乗り切っているのでしょうか？**落葉樹**は冬になると葉を落として、一見枯れてしまったかのように見えます。これは葉からの蒸散を制限して寒さや乾燥に適応するという意義があります。葉を落とす前に、葉の付け根に**離層**という組織が形成されます。それによって物質の移動が妨げられ、葉が落ちます。葉が落ちた跡は**葉痕**とよばれ、植物の種類によってその形は様々です。その部分は**コルク層**で覆われています。また、落葉樹には**冬芽**というものがあります。これは落葉の前につくられ、冬を越えて春になってのびる芽で、新しい葉や花のもとになるものです。冬芽は寒さや氷雪に耐えるため**芽鱗**で包まれたり、**樹脂や毛**でおおわれたりしています。



オニグルミの冬芽と葉痕

では野草はどうでしょうか。野草が冬を越す方法には次の3つのタイプがあります。1つは**種子で越冬**するタイプです。これは**1年草**といい、春になると種子が発芽して成長し、夏から秋までに開花、結実しその年のうちに枯死する植物です。ツユクサ、フタクサなどがあります。2つ目は**秋に発芽**して、あまり大きくなりないうちに冬を迎え、冬越しするタイプです。これは**越年草（2年草）**といい、**ロゼット**という形の**葉で冬を越し**、春になるとその状態から成長し、開花結実し種子をつくって枯れる植物です。ヒメジョオン、ナズナなどがあります。ロゼットで越冬する植物は2年草だけではなく、**セイヨウタンポポ**や**ノアザミ**などの**多年草**もあります。3つ目は秋に芽や葉などの**地上部は枯れてしま**い、一見枯死したかに見えるものの、土の中にちゃんと根や地下茎を残して冬を越すタイプです。これは**多年草（宿根草）**といい、野草にもっとも多い生活型です。フウジュソウ、カタクリ、ススキなどがそれです。**ロゼット**とは、芽生えてから茎が高く伸びないで、短縮した状態のまま多くの葉をつけ、根から直接葉が**放射状**に出たように見える状態の事です。この葉を**根生葉**といいます。ロゼットの語源はバラの Rosse からきていて、まるで花びらが重なっているように葉が広がっています。地面にびったりと貼り付くようにしているため、風の影響はあまり受けず、光は十分に受けられ、有利に成長できます。タンポポやオオバコは**すくすく**と**ロゼット**型で生活し、花をつけるときだけ茎を立てます。ヒメジョオンやメマツコイグサは、**ある期間をロゼットで過ごし**、その後普通の茎を立てて、葉や花をつけます。しかし、**秋に発芽**したヒメムカシヨモギは冬越しのため必ずロゼットをつくりますが、**春に発芽**したものはロゼットをつくらないで、最初から茎を伸ばして小さいながらも花をつけます。一方、**熱帯地方**に生えるヒメムカシヨモギの場合は、どの季節に発芽したものであってもロゼットをつくらないということが知られています。環境に適応し、冬を乗り切る能力を植物は持っています。



ヒメジョオン



セイヨウタンポポ

情報

—花のイベント—

（事前にご確認ください）

- 上野・東照宮冬ぼたん
1月1日（金）〜2月28日（日）上野東照宮
- フラワードリーム2016
2月6日（土）〜2月7日（日）東京ビックサイト
- 湯島天神 梅まつり
2月8日（月）〜3月8日（火）湯島天満宮
- 世界らん展日本大賞2016
2月13日（土）〜19日（金）東京ドーム